

鼓ヶ浦中学校 令和5年度自己評価書

	重点目標	具体的な行動計画	評価指標(数値目標)と<達成状況>	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
特色ある教育活動の創造	ともに学び合う授業の創造	①「主体的・対話的で深い学び」につながる課題設定について深める ②安心して発言できる環境づくり ③授業や学校行事等で、全体で発表する場面の設定 ④ICT機器の活用場面を探る	・「授業中、自分から進んで発言したり、考えを発表できる」 生徒アンケート 目標60% ⇒ ●39.9% ・「自分から進んで勉強に取り組んでいる」 生徒アンケート 目標75% ⇒ ○75.7% ・ICT機器の週1回の授業での効果的活用	●学期をおうごとに、3～4人グループを活用することによって、少しずつ発言が増えていっているが、全体で発表する場面になると、自分なりの考えがまとまっても不安になり発言できない子がいる。 ○自主勉ノートを作成したり、問題集を繰り返し解いたりして、自分から進んで勉強に取り組むことができた。	・「授業中、進んで発言したり、考えを発表できる」の回答が前年度は54%だが、今年40%弱。自分から進んで発言・発表できない理由は何か？また、安心して発言できる環境づくりとは「安心して」とはどんな状況を指すのか？ ・発表したり発言したりの数値が低いのが、不安になり発言できない原因はなぜなのか検証する必要があるのではないかと？	○生徒主体の授業を基本とし、基礎基本の定着が図れるような授業改善 ・わかる・できる授業で自信を ・スモールステップステップで達成感を ・個別のつまづきの掌握
	一人ひとりに応じた支援体制の確立	①支援ファイルの活用と定期会議・支援会議の実施による共通理解 ②生徒観察と傾聴による生徒理解 ③授業巡回や授業支援によるサポート ④生徒指導と特別支援の連携 ⑤こまめな情報把握と組織的対応 スクールカウンセラーSC、不登校支援員SLS、スクールソーシャルワーカーSSWの効果的活用	・「困ったとき、学校の先生に相談できる」 生徒アンケート 目標80% ⇒ ○80.7% ・「先生はわたしのよいところを認めてくれる」 生徒アンケート 目標90% ⇒ ○93.7% ・「学校に行くのは楽しい」安心度が進む 生徒アンケート 目標85% ⇒ ○82.3% ・不登校生徒数の減少 不登校数10人以下(⇒31人)※12月	○日頃からのきめ細かな指導や関りが生徒の学校に対する肯定感を高めている。 ○支援ファイルや生徒理解支援シートを作成し、部会やSCとともに確認しながら、必要な手立てを検討した。 ○不登校支援については、週2回の数時間ではあるが、サポート教室に支援員を配置し、生徒に寄り添う体制が増えた。 ○保護者の思いも聞き取りながら個に応じた指導・支援を行うことができた。 ●依然として不登校生は数が多く、学校だけのケアでは対応が困難な状況にある。	・不登校生は現場の先生だけでは、対応が難しいと思う。サポート体制が必要。 ・「不登校の生徒数」12月現在で31人で毎年増加傾向。クラス数で割るとビックリする数である。人間関係やいじめ等、理由はいろいろ考えられるが、学校だけに対応を押しつけ、任せっきりにせず、対応を考えるべきでは。 ・不登校生徒へのケアは関係機関・保護者と連携して取組が必要。	○保護者・関係機関を含む組織的な支援体制の推進と継続 ・課題のある生徒の丁寧な観察と記録 ・教室の環境整備(ユニバーサルデザイン) ・不適応行動の要因に対する多面からのアプローチ
	豊かな教育内容の充実	①キャリアパスポートの作成、活用 ②行事を通じた非認知能力の育成 ③ネットモラル学習を全校で定期実施 ④各関係機関と連携した学習の充実による教養、豊かな情操の育成 ⑤生徒が参画する地域行事や生徒会活動の推進	・「将来の夢や目標を持っている」 生徒アンケート 目標70% ⇒ △69% ・「人が困っているときに進んで助ける」 生徒アンケート 目標90% ※質問なし ・「学校は将来の進路や職業について適切に指導している」 保護者アンケート 目標80% ⇒ ○80.5% 3年間積み上げたキャリア教育の実現	○3年生ではキャリアパスポートの活用は3学期になるが、将来の夢ややりたい自分を考える授業は定期的に行っている。また、高校進学を希望している生徒が100%であるので、担任を中心に進路指導を適切に進めている。1年生においても、小學校で作成したキャリアパスポートを3学期に引き継ぎ作成する予定である。○道徳の授業でネットモラルについて考える内容を学期1度を行うようにした。○文化庁事業による雅楽鑑賞会で3年生が体験をする機会をあたえていただいた。○数年続いていたコロナ禍が落ち着き、生徒会が主催する行事学習を通して外部の各関係専門機関の方を招き講話していただいた。	・「学校は将来の進路や職業について適切に指導している」生徒アンケート70%以上を3年連続でほぼクリア。生徒自身が将来について考えていける機会を与えて欲しい。家庭の中での話し合い、アドバイスが一番大切。 ・生徒が参画する行事等が平常に開催される事はよかった。 ・外部の専門機関の方を招いて話を聞くことはとても良い経験になると思います。招く前にどういった方なのか等の予備知識をもう少しいただくと、興味の高さも変わるのかなと思います。	○3年間の計画的な生徒主体の教育活動の推進と充実による非認知能力の育成 ・キャリア教育(職業、仕事、夢、生き方・在り方、出会い、進路)の充実 ・学校生活を創る生徒会・委員会活動の活性化 ・地域と密着した行事への積極的参加 ・教養醸成のための講演・文化・運動活動の推進
開かれた学校づくり	情報発信と教育課題の共有	①各種通信、HPを充実させ保護者と地域に向けて丁寧に情報を提供する ②学校運営協議会等で重点的な取組について具体的に発信協議する ③緊急時のメール配信等速やかに行う ④学期に1回は公開デー、授業参観等様子を見せよう機会を設ける	・「学校は教育方針を保護者にわかりやすく伝えている」 保護者アンケート 目標85% ⇒ △72.7% ・「通信、HP、メール配信等で、情報を家庭に積極的に提供している」 保護者アンケート 目標90% ⇒ ○88.3% 学校だよりは地域回覧をする	○学校通信・学年通信・進路通信を定期的に発行している。特に大事な連絡については保護者に確実に伝わるようにメール配信を活用している。HPには、学校通信や行事予定などの基本情報を載せている。また、インフルエンザ等の治療後に提出が必要な「学校感染症届出書」がダウンロードできるようにしている。 ○今年度は授業参観を再開し、生徒の姿を直接見ていただく機会を増やした。 ○学校運営協議会や地区補導等で行ったご意見を学校運営に活かしている。 ●ICTを活用した授業を取り入れ、生徒たちの端末利用回数も増えつつあるが、それに伴い情報モラルやデジタルリテラシーの観点からの指導が必要となってくる。	・R5年度より学校・保護者・地域をつなぐ目的で『うてよ、ひびけよ』鼓ヶ浦中通信が地域回覧されるようになり、中学校の行事予定や生徒の様子がいちいちとわかると孫を持つ高齢者から「うれしい」という声がでてい ・学校通信を回覧で地区に回してもらう事は、地域の人に学校を知ってもらう事ができ、良かったので続けて欲しい。 ・授業公開ウィーク等参観の機会が増え、都合が合えば参観に行ったが、開催頻度に対して参加回数が少なく申し訳なかった。参観されている保護者は少ない印象。	○地域・保護者・学校が連携した教育活動の推進 ・学校参観の機会の継続(参観WEEK,行事開放) ・通信発行による情報共有の継続 ・HPの更新の充実
	学校評価の活用	①全国学調の生活アンケートから分析した傾向を指導に生かす ②生徒・保護者アンケート、教科アンケートをもとに関係者評価を作成する ③PDCAサイクルを組織的におこなう	・「学校は生徒が意欲的に勉強に取り組めるよう、教え方を工夫している」 保護者アンケート 目標80% ⇒ △80.1% 家庭や地域の学校への理解や協力が進む	○校内研修において県教育委員会指導主事を招いて分析、助言をいただいた。結果、改善方針に関しては、学年通信等を使い保護者、生徒に報告した。②保護者アンケートの結果で気になる部分を抜粋し、学年会で確認を行った。 ○各学年での分析や校内研修で調査結果をもとに話し合い、各教科の授業に生かすことができた。1年みえスタの結果から、各教科に共通する課題が「問題の読解力」にあると分析し、今後の各教科における指導に生かすことを確認した。○鳴門教育大学連携の保護者アンケート結果で数値が下がった部分を抜粋し、学年会で共有し、今後の重点的に取り組む項目を確認した。	・生徒が「本を読むことの大切さ」から図書館の利用を少しずつでも増やして欲しい。どの教科にも「読解力」が必要とされます。スマホは長時間接することができるのに、読書は時間がとれないという今の現状を思う。 ・保護者に周知してもらう事が必要ではないか？保護者の公開授業等への参加を促す。 ・アンケート結果で保護者と生徒で差があるが全体的に高く、先生方の取組や工夫は生徒にも伝わっていると 思います。	○学校自己評価・関係者評価をおこなうことで、PDCAサイクルにもとづいた学校運営を行う ・全国学調・鳴門アンケートから、実態を分析し、課題を教職員全員で共有する ・評価項目を地域の方にできるだけわかりやすく改定する
	保護者・地域との連携・協働	①地域の行事にスタッフとして参加・協働する輪を、生徒会中心から広げる ②避難訓練・防災訓練では、地域の一人となれるように実践の場を設定する	・「普段、家や近所でよくあいさつをしている」 生徒アンケート 目標90% ※質問なし ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」 生徒アンケート 目標95% ⇒ ○96.5%	○生徒会として参加する場面はなかったが、部活動単位で年2回の海岸清掃に参加したり、福祉委員会が老人会に参加したりできた。また、有志生徒が夏休みのラジオ体操や夏祭りの手伝いも行った。地域のイベントに積極的にに関わり、さまざまな年代の地域の方との交流ができた。 ○さまざまな関係機関を招いて防災学習に取り組み、その活動を新聞にまとめ、地域に発信した。また、3月の大津波避難訓練では、地域の方々に参加していただき、生徒から活動の還流報告をした。	・新聞(通信)にまとめ、地域に発信してもらい中学校の情報がよくわかってきた。 ・海岸清掃、夏休みのラジオ体操の手伝い、夏祭り(盆踊り)の協力、敬老会への参加・手伝いと地域との交流が増えてうれしい。参加し、協力し合えた事で、自分の感じた事、これからやっていきたい事等、意見を出し合ってもらいたい。 ・コロナ禍前への様に地域の行事等に生徒が参加する機会を増やす。 ・参加できる全ての行事に参加できなかったが、PTAとして除草作業に、生徒には部活動で協力いただいた。保護者の数としては多くないことから課題となりそう。(地域ボランティアの方にも多数協力いただけた。)	○防災学習・地域関連の行事への参加促進 ・毎年1年生を中心に防災学習を行い、地域へも発信する活動を継続する ・海岸清掃をはじめ、PTA活動や地域行事への参加での還流や学んだことを、校内でお知らせするなどの機会を設ける
組織力の強化と人材育成	授業力の向上 確かな学力育成	①一人1回の授業公開を継続する 学習指導要領にある教科の資質・能力を押さえた授業改善 ②全国学調、みえスタの分析による学びなおしと全教科での活用 ③家庭学習の課題を工夫 ④補充学習や適切な支援等による学力の引き上げ	・授業公開年間一人1回以上と事後検討会による改善 ・「先生はわかりやすく授業を工夫してくれる」 生徒アンケート 目標90% ⇒ △89.8% ・「家庭学習時間1時間以上」生徒アンケート 目標65% ⇒ ●51.2% ・全国学調・みえスタ 目標 県平均以上 1年 国 -0.4 P 数 -1.8 P 理 -1.9 P 2年 国 -4.4 P 数 -6.5 P 理 -4.2 P 3年 国 -2 P 数 -2 P 英 +3 P ・生徒の意欲向上と理解度の促進	○年5回の校内・公開授業を行った。研究授業を行った後にアドバイザーにアドバイスをいただきながら各教員が、生徒が取り組みたくなるような課題を設定するなど、授業改善を行った。 ●家庭で学習時間が少ない子がいる。 ●3～4人グループを活用していること、ICTは個人として使う場面が多いため、有効活用されていないことが多い。	・ICTの活用を考える事が大事になってきていると思う。 ・「平日家でどれくらい勉強していますか」の家庭学習1時間以上で目標65%以上に対して、51.2%の結果から、家での習慣がほとんど出来ていない。学校だけではこれは無理だと思えるので、学習習慣づけは何としても家庭に協力をしてもらう事は当たり前のこと。 ・3～4人グループでの授業が有効ならICTを無理に活用する必要はどうか。	○教員が個々に課題をもって授業改善をおこなう PDCAサイクルに基づいた授業研究 ・考えを引き出す発問の工夫 ・振り返りの充実 ・効果的な習熟度別授業の工夫 ・家庭学習にもつながる個別最適な学びにおけるICT活用の可能性
	組織力の向上 「チーム鼓ヶ浦」	①報告・連絡・相談をこまめに、組織で対応する意識と実行力の向上 ②若手教員が幅広く学ぶ機会を増やす自主研修、校外授業研修会への参加促進 ③ICT端末を有効活用した打ち合わせや会議の持ち方の検討 ④提案事項の精選と簡潔な提案による会議時間の短縮	・「職場の先生から率直な指摘や意見がきける」 教員アンケート 維持 ⇒ ○87.5% ・「この学校の先生は互いに信頼しあっている」 教員アンケート 維持 ⇒ ○93.8% ・定時退校月2日9割、部活動休養日週2日 会議時間60分以内 職員会議・校内研修 ・時間外労働時間の削減 年間360時間超0人 月45時間超0人 ⇒のべ91人 ※12月現在 ・休暇日数1日以上 年間20日 ⇒16.5日 ※12月現在	○授業における参観や指導における助言・相談、校内分掌等における業務については、協力的に行うことができた。 ●組織的に学校運営を進めていく上で、校務分掌を複数で協力して行うため、その業務を担う担当者が年度ごとに計画的に役割分担・交代し、いろいろな行内業務を経験する必要がある。 ○定時退校日は定着が見られるが、個々で自分の業務内容を計画的に進める意識差はある。 ●時間外労働時間については、多くの教員が月45時間を超えている。年度途中における教員の欠員等により、業務内容のバランス調整や削減に配慮が欠けた面があった。今後、校内組織体制等において年齢・経験年数に基いたバランスや担当者を段階的に引き継ぎ、協力して業務が行えるようにする。	・先生の時間外労働を削減する為には、教員数の充実が必要だと考えます。 ・時間外労働が少しでも減らせる様、工夫をと毎年あるが、今まで通り改善されていない。 ・教員不足、時間外労働の超過は教育委員会等とも連携して考えていく事が必要。	○ICT端末による会議や情報の整理の推進 ○行事の精選と年間計画の見直し ○部活動運営の見直し
	地域人材の発掘・育成	①地域で開催行事への積極的参加 ②地域人材を活用した防災・環境学習の実施 ③学校運営協議会での課題共有と地域ボランティアの組織づくり	・「地域の活動に参加したいと思う」 生徒アンケート 目標70% ⇒ ○65.2% 実質参加生徒全員1回以上 ・ボランティア組織の活動開始と展開 ・校内の課題、校則改正等への有識者からの助言や協議	○今年度も髪型の校則改定を生徒会執行部主催で実施し、来年度完全実施となる。 ○制服を変更し、より幅広い選択肢を生徒に与えた。 ○コロナ明けということもあり、昨年度以上に地域の方に学校の取組を伝え情報交換や意見をうかがうことができた。 ○今年度も消防署に協力を依頼し防災学習を進めた。 ○海岸清掃などに積極的に参加した。 ●ボランティア登録者が増え、活動していただいているが、生徒と直接かわる地域の人材発掘はできていない。	・少しずつ地域との交流が増えてきている。コロナ禍以前に戻りつつあると思います。 ・地域活動に積極的に参加、協力できる生徒が少しずつ育って欲しい。そのためには、まず自分が住む地域に関心を持つこと、それから始まります。 ・校則改訂を生徒会主催で実施したことは良い。地域ボランティアの登録者が増えているのは望ましい。生徒、保護者に認識してもらう事が必要ではないかと？	○学校ボランティア活動の参加促進 ・支援の様子を通信等で地域へも伝える ○地域人材の発掘 ・地域の産業や伝統、地域の行事等で活躍されている方との出会い学習の設定